

## 新患者支援センター長のご挨拶

このたび、位田先生の後を引き継ぎ、患者支援センター長を拝命しました副院長の鈴木保宏です。今後、患者支援センターを通して地域医療連携の発展に貢献したいと考えていますので、一言ご挨拶申し上げます。



この4月に平成時代が幕を閉じ、新しい時代を迎えました。大阪母子医療センターは平成時代に周産期センターから小児病院へと生まれ変わりました。この間に小児科領域では2つの新しい医療分野が生まれました。在宅医療と移行期医療です。患者支援センターは患者さんを支援する総合窓口であり、この新しい分野にも対応が必要となりました。



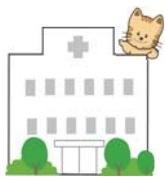
患者支援センター長  
鈴木 保宏

医療器具の進歩は在宅での高度な医療的ケアを可能にしました。当センターでは1995年に神経筋疾患の患者さんに初めて在宅人工呼吸器を導入しました。この10年間に在宅人工呼吸器を装着する患者さんの数は急激に増え、現在では70名を超えています。昨年からは情報通信技術(ICT)を活用して南大阪MOCOネットを構築し、院外から当センターのカルテが閲覧できるサービスを開始しました。このサービスを在宅で医療的ケアを行っている患者さんから始めました。今後、その対象を広げて地域の医療機関の先生方にもMOCOネットを是非利用していただきたいと考えています。

次に移行期医療です。医療の進歩により、小児期発症の慢性疾患をもつ患者さんが病気を抱えたままで成人となり、小児科医療のみでは完結なくなりました。当センターでは現在1,000名を超える成人患者さんが通院されています。この中には成人医療機関に転院が困難な患者さんも少なくありません。当センターはこの4月に大阪府から委託を受け、府全体の移行期医療支援センターの事業を引き受けました。患者支援センターは地域の医療関係機関との連携の窓口でもあります。今後、成人医療機関との地域連携にも取り組み、移行期医療のいいモデルになれるように努めたいと考えています。



## 病院機能評価について



第三者機関からの中立的、科学的・専門的評価として、今年3月に公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価を受審し、7月12日付で認定を受けました。2004年の初回認定から、今回で4度目の認定となります。

周産期・小児医療の基幹施設として、地域の皆さまから信頼され、期待に応え続けられるよう、今後も業務の質の改善に取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

### 基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域と連携して、母子保健を充実させます。
- 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます。

## 麻酔科

私たち麻酔科が行っている仕事は大きく2つに分かれます。

1つは手術室内での手術時の麻酔です。当センターでは手術室内での麻酔管理は全て麻酔科医が行っています。術中の侵襲から患者さんを守ることはもちろんですが、術後鎮痛のための硬膜外麻酔や神経ブロックも積極的に行っています。

2つ目は手術室外での鎮静や鎮痛です。子どもさんがMRI検査などを受けられるときには多くの場合鎮静が必要となります。安全に検査を受けていただくために麻酔科医が鎮静薬を調節し、検査中の全身管理をしています。

また、無痛分娩の管理も産科医・分娩部と協力しながら行っています。無痛分娩を正しく理解していただくことを目的とし、無痛分娩教室も開催しています。「母子ともに安全な分娩を」を目標とし、その中でできるだけ痛みを軽減させ満足のいく分娩をしていただけるように、無痛分娩中も担当麻酔科医による丁寧な管理を行っています。

現在麻酔科は15名のスタッフで頑張っています。



麻酔科スタッフ

外科系各科や集中治療科医師との連携も良く、手術室内の「雰囲気良さ」が外科医の良い手術に繋がっていると考えています。

近隣病院の皆様からも「手術をするなら母子センターで」と言ってもらえるよう、麻酔科と手術室看護師とが協力し、より一層手術部の質を高めていきたいと思っております。

今後ともよろしくお願いいたします。

(麻酔科 主任部長 橘 一也)

## リハ・育療支援部門 の 紹 介

2019年4月に、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、視能訓練士、遺伝カウンセラー、ホスピタルプレイ士の7職種から構成される、総勢41名の「リハ・育療支援部門」ができました。



リハ・育療支援部門スタッフ

それぞれの職種の専門性を通じて子どもとご家族にアプローチするとともに、7職種間で連携・協働することで、子どもの成長発達に関わるトータルケアを目指しています。生き活きと、その子らしく

社会で暮らすことができるように、運動、手の操作、視覚/聴覚、言語、認知、社会性等の様々な領域の発達や、こころの育ちを支援します。

当センターの先端医療を受けた子どもの中には、身体的な機能の障害(運動や言語等)や発達の遅れを有したり、侵襲的な治療や長期入院による心理的な苦痛を体験したりする子どもがいます。退院後、社会適応上の困難が生じることもあります。リハ・育療支援部門では、このような子どものQOLを向上させ、個々の子どもに応じた社会的自立に繋がる支援を、乳幼児期から継続して提供していきます。

また、医療・保健機関、療育施設、保育園、幼稚園、学校など、子どもの生活の場の関係機関と協力して、子どもの発達を見守り続けることが重要と考えております。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

(リハ・育療支援部門 技師長 山本 悦代)



★第12回 地域連携懇話会 (2019.3.14)

当センターは2018年10月に小児救命救急センターの認定を受け、救急搬送の患者さんを積極的に受け入れていくことになりました。そこで、**地域の消防本部・消防局の方々との連携**をテーマに地域連携懇話会を開催しました。

当日は10消防本部・消防局より20名の方にご参加いただき、各消防本部の搬送の現状や当センターへの要望などを伺いました。当センターへはかかりつけの患者さんの搬送がメインであること、当センターで受け入れられる疾患が分かりにくいとのご意見がありました。これに対して当センターから、内因系は全て受け入れ可能であること、外因系は状況によって異なりますが、現場の判断で連絡していただければよいことをお伝えしました。

今後も各消防本部・消防局と関係を構築し連携を図っていけるよう努めていきたいと思っております。

★第13回 地域連携懇話会 (2019. 6.17)

2018年3月より稼働しております**地域診療情報連携システム(愛称:南大阪MOCOネット)**を院外薬局にも拡張していくために、薬局の方への本システムの紹介と、現場で活用していただくために薬剤師の方が必要とされている情報等について意見を伺いました。また、日々の連携の中で当センターへのご意見や要望なども聞かせていただきました。当日は17薬局より19名にご参加いただき、活発な意見交換ができました。



第10回きっずセミナー 2019. 8. 3(土)

ボランティア25周年

「第10回きっずセミナー

～未来のきみへ病院のお仕事2019～」を開催しました。



1994年、病気子どもたちやそのご家族を支えようとボランティア会が発足し、今年25周年を迎えました。

531名の応募者の中から抽選で選ばれた小学生から高校生までの346名が、AコースからHコースの8コースに分かれて様々な職業体験をしました。



屋外は、35度を超える猛暑日でしたが、センターの中もその暑さに負けないくらいの子どもたちの熱気に包まれていました。



両親以外が病室に入ることが許されなかった25年前、有志が集まり、入院中の子どもたちに遊びを提供しようと始まった活動です。

プレイルームやベッドサイドでの活動は地元紙で紹介され、地域住民らの病院ボランティアへの関心が高まりました。現在では18グループ、約170名のボランティアが、

- 外来待ち合いでの遊びや見守り
- きょうだい支援
- 縫製作業
- 庭の手入れ
- 読み聞かせ



などを行っています。



これからも患者さんやご家族のニーズに沿った支援活動、そして子どもたちにやさしく笑顔で寄り添う活動を続けていきたいと思っております。

地域連携アンケートの結果

2019年7月に医療機関の皆さまにアンケートを実施しました。ご回答くださいました皆さま、ありがとうございました。アンケートの結果より、当センターの各種ホットラインと連携医療機関の先生を対象としたメールによる「医師相談窓口」の認知度が低いことが明らかとなりましたので、今後周知に力を入れていきたいと考えております。

PICUホットライン  
☎ 0725-56-1070

当センターでは、医療者を対象とした24時間対応のホットラインを設置しております。是非ご活用ください。

医師相談窓口   
Email : chiren@wch.opho.jp

小児がん、白血病ホットライン  
☎ 0725-57-7677



心疾患ホットライン  
☎ 0725-56-3833

## セラピードッグの夏祭り (2019.7.31)

昨年に引き続き、今年の夏も「積水ハウスマッチングプログラム」の助成を受け、セラピードッグの夏祭りが開催されました。



浴衣を着ておめかししたセラピードッグ、法被を着たスタッフが子どもたちを迎えました。

サプライズゲストとして、元WBC世界スーパーバンタム級チャンピオン 西岡 利晃さんがチャンピオンベルトをお持ちくださいました。

会場は西岡さんとのミット打ちや、魚釣り、くじ引きなどのゲームを楽しんでいる子どもたちの笑顔で溢れていました。



## "つながる"胎児エコーみらいの会

地域との連携を深める取り組みの一つとして、「つながる"胎児エコーみらいの会"を2018年9月から開始しています。

2019年6月に第10回を迎えることができ、7月6日(土)に心斎橋で「特別講演会」を開催しました。

### 講演内容

- ①RSウイルス感染と小児の呼吸不全
- ②胎児診断を受けた母児の分娩管理
- ③大動脈縮窄、左心低形成症例の胎児期から新生児期への変化は予測できる?

多くの方々が参加くださり、また、質疑応答も活発に行われ、講演会後の意見交換会では『顔の見える連携』が十分にできたと感じています。

この会の開催は  
**毎月第3水曜日 19:00～20:15**  
です。引き続きご参加のほど  
よろしくお願いたします。

## 2019年度 イブニングセミナーのお知らせ (医療関係者対象)

引き続きイブニングセミナーを開催します。

- 対象** 医療関係者
- 時間** 17時45分～19時00分(講義60分)
- 場所** 大阪母子医療センター 研究所大会議室

事前申込みは不要です。  
直接、会場にお越しください。  
お気軽にご参加ください。



- 大阪府医師会生涯教育研修システム1単位
- 日本小児学会新専門医制度 iii 小児科領域講習 1単位に認定されています。

日程	担当部署	テーマ	講師
2019年10月17日(木) ※テーマ、講師が変更になりました	小児循環器科	こどもを守ろう! ～こどもの不整脈、学校心臓健診～	青木 寿明
2019年11月7日(木)	栄養管理室	重症心身障がい児の栄養管理	西本 裕紀子
2019年12月4日(水)	耳鼻咽喉科	小児科医として知っておきたい上気道疾患	廣瀬 正幸
2020年1月22日(水)	泌尿器科	小児の腎移植	矢澤 浩治
2020年2月6日(木)	リハビリテーション科	小児の急性期リハビリ	田村 太資

### 交通のご案内



診察時間 : 平日 9時～17時30分  
予約受付時間 : 平日 9時～19時

地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター 患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

【初診専用】 TEL: 0725-56-9890 (直通)  
FAX: 0725-56-5605

【その他】 TEL: 0725-55-3113 (直通)  
FAX: 0725-56-7785

【医師相談窓口】 MAIL: chiren@wch.opho.jp

医療者対象  
ホットライン  
(※24時間受付直通)

PICUホットライン  
☎ 0725-56-1070

小児がん・白血病  
ホットライン  
☎ 0725-57-7677

心疾患ホットライン  
☎ 0725-56-3833

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。